

## HSP と幸福感およびストレスとの関連における共感性の媒介効果

1250405 伊吹麻矢

指導教員 三船恒裕

### 研究背景

HSP は感受性が高く、外部の刺激に敏感な人のことである。HSP は共感性が高いが、主観的幸福感が低く自己認識ストレスが多いことが明らかとなっている。一方、他者指向的な共感性が高い人ほど生活満足感が高く、自己指向的な共感性が高い人ほどディストレスが多いことが示されている。したがって、HSP は自己指向的な共感性が高いことで、主観的幸福感が低く、ストレスを多く感じている可能性が考えられる。

### 研究目的

自己指向的反応が HSP と主観的幸福感やディストレスの関係に影響を与えているのかを検証することを目的とする。また、HSP と共感性の多次元構造との関係性については明らかとなっていないため、HSP と多次元共感性尺度の各因子との関連についても検証する。

### 研究方法

Qualtrics で調査票を作成し、Web 調査を行った。高橋 (2016) の Highly Sensitive Person Scale 日本版 (HSPS-J19)、鈴木・木野 (2008) による多次元共感性尺度 (MES)、伊藤他 (2003) の主観的幸福感尺度、中川・大坊 (2013) による GHQ 精神健康調査票 12 項目版 (GHQ12) の 4 つのデータを集めた。分析は HAD (清水, 2016) を用い、HSP と共感性の下位因子の相関分析、また、自己指向的反応が HSP と主観的幸福感、ディストレスの関係を媒介するかどうかを確かめるために、媒介分析を行った。

### 分析結果

相関分析の結果、HSP と被影響性、想像性、自己指向的反応の間には正の相関が見られた。一方、他者指向的反応、視点取得との間には有意な相関は見られなかった。また、媒介分析の結果、自己指向的反応は HSP と主観的幸福感、HSP とディストレスとの関係を部分的に媒介していた。

### 考察・結論

自己指向的反応が HSP と主観的幸福感、ディストレスの関連を部分的に媒介していることが示されたが、HSP が主観的幸福感を低め、ディストレスを高める要因は、自己指向的反応が高いこと以外の要因もあることが示唆された。また、HSP は外部の刺激に敏感であるため、他者の感情や意見に影響されやすく、自己を架空の人物に投影し、他者の苦境に対し同情するのではなく、「自分でなくて良かった」という共感反応を示しやすいことが示された。